能力<チカラ>×武器<チカラ>

江戸剛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
能力＞チカラ＜×武器＞チカラ＜

【Ｎコード】
Ｎ５９５０Ｃ

【作者名】
江戸剛

【あらすじ】
チカラとは？この物語は絆（ライン）という契約を結んでしまった人間と武器の話。あるものは破壊を、あるものはそれを止めようと、またあるものは傍観している。そんな話。一体何がどうなっているか解らない。そんな話。ただ一つわかっていることは武器達は呼び合うということだけ。そう、それだけの話。

ぷろろーぐ０（前書き）

序章のさらに序章です。
　短いです。
見づらいところが多いと思いますが、読んで頂ければ有り難いです。
それではどうぞっ！！

ぷろろーぐ0

―暗いな？何処だ此処は？……フン、そういうことか…あいつ…めやれ・・やれ今度……はどうなる……こと……やら……
……――

「―ッ！？」
目が覚める。体中が汗ばんでいる。
「何だ今の？」
そう呟き、起き上がる少年。眠そうに目を擦りながら時計を見る。8時を回ったところである。
―ピタッ
少年が固まる。そして…
「ッッッ！？　ヤベェ！寝坊だぁぁぁぁぁぁ！」―絶叫
そしてブツブツと
「毎日毎日なんだってこんな目に？？昨日は新作のゲームの発売日だったから、帰ってきてからずっとやってて・・・」などと言い出した。
…彼には自業自得という言葉を送りたい。
その後、慌ただしく制服に着替え学校へと向かった。

世の中にはどうにもならない事がある…始まりはいつからだろう？いじめにあったとき？
両親が離婚したとき？それとも他に……
ただ言えることは彼女の心は歪み、引き裂かれ、世界への恨みに満ちているということだけだ。
「ミンナキエチャエ」

そんな言葉が吐き出される程に……
《ククク・・・中々の力を感じますねぇ》
「…ッ！誰！」
突然の声に思わず顔があがる。すると、前髪が顔を覆う。しばらく切ってないようだ。だが、覆われているはずの目は爛々として、髪の隙間から怪しい光を放っている？　そしてその視線によってとでもいうように、空間に闇が生じた。
その闇から
《…んっ？》
と声が発せられた。

「ッ！？」
少女の息を飲む気配。がそれも一瞬、
「…何を言ってるの？」
次の瞬間には先程よりも強く闇を睨んだ。

《まぁまぁ、そんな目で見ないでください。私はあなたの味方なのですから。》

「味方？」
少女の視線に困惑の色が混じる。

《ええそうです。というのも…》
闇がうごめき凝縮し形作られていく。その形とは……
「ハン…マァ？」
思わず声に出てしまう。そう、どう見てもハンマーなのだがどこか違和感がある。
まるで生きているみたいに鼓動を感じる。
《ああ、名乗るのを忘れていました。私はＮｏ．３２〈常夜の闇〉と申します。形態は見ての通りです。》

「そ、それで何が目的なのよ。」
声がうわずる。さっきまであった感情は全てどこかに行ってしまった。今あるのは恐怖だけである。
《急にどうしたのです？そんなに怯えて。大丈夫ですよ？言ったでしょ？アナタの味方だって。私を使いなさい？》
「えっ！？それってどういう…」
《そのままの意味ですよ。私は何です？多少変ですが武器です。使い手がいなければなにもできません。》
「じゃなくて！何であたしなの！」
《この世界が憎いのでしょう？》
「―ッ！！」
《何があったかわかりませんし聞きたくありません。が、アナタの願いがわたしのものと同じなのです。私も世界を憎み、そして…壊したい。私を作り出した世界なんか…》
「……」
《それだけです。そして私はここにある。アナタに使われるために……》

「…ははは」
瞳に狂気が宿る。
「ははは、あはははははは……」
狂ったように笑い続ける。
「……いいわ。やってやりましょう。こんな世界なんか壊してやろうじゃない。」
笑いが治まり狂気とともに言葉が紡がれる。
「あたしはあんたを使って世界を壊すわ。力を寄越しなさい！」
《いいでしょう。これより私はアナタの武器にして同じ目的を持つ友。思う存分振るって下さい。》
ハンマーが闇に戻り少女を包み込む。そして少女に吸収されていく。

《そう言えば、私はまだアナタの名前を知りません。アナタの名前は？》
吸収されながら闇が問う。
それに少女は
「あたしは……」

結局遅刻した。
……何だその何か言いたそうな顔は？
俺をＫＹみたいな目で見るな。

続く

ぷろろーぐ０（後書き）

改稿しました。

駄文ですが読んでくだされば幸いです。

ぷろろーグ01

「わたしの名前は……」
―ガタンッ！
「……何？今の…」
《―ッ！伏せなさいっ！》
「えっ？どういー」
―ズゴシャァ
「きゃっ！？」
突然の衝撃にバランスを崩す。が、それが彼女を助けた。
―ドスッ
頭のあった場所を槍が通り過ぎ、向かいの壁に突き刺ささった。
「お前が橘奈々（たちばな　なな）か？」
「誰！」
「知る必要は無し。お前はここで死ぬ。」
そう言い男が部屋に入ってきた。背が高い。髪も長い。腰まであろうか。顔立ちも整っている。やや鋭く近寄りがたい感じがする。が、またそれがその男にひどくあっている。しかし、違和感がある。何かとはわからないが…だから
「男？」
思わず口に出た。すると、
「そうか。君には私が男に見えるのか？確かに背は少々高めで、服装も動きやすさを重視してるから女らしくないし…」
「えっと…」
「でも胸だってちゃんとあるのに……ささやかだけど…」
「いや、あの……」
「大体入ってきた時に即効で【男】って確定するとかなに考えてるのよ？」
「あうぅぅ…」

「何なのその後の私の容姿？抽象的だけどなんとなく女って思うわよ。…【男】が最初になければ…」
「……」
まずい。何がまずいのか？色々だ。なんとかしなくては…しかし
「うっ、うぅぅ、うっ、うわーんっ！」
遅かった…彼（＋女）は盛大に泣きはじめた。
そらもう、シリアスな雰囲気がぶち壊しになるぐらいに。
「……えっとあの……」
―オロオロ・・・
奈々は見ていることしかできなかった……

《あなた達って、そんなキャラでしたっけ？》
その囁きは誰にも届かなかった……

俺は今教室の前にいる。完全なる遅刻。中では授業。…入りずらい。
「どうすっかなー？」
悩むことすでに5分。いい加減に入らないとまずいか…。
「よしっ！」
扉にてをかけ、一気に開けた。

続

……ここで区切るのかよ……

ぷろろーグ01（後書き）

久々です。しかも短い。　それでも読んでくださる方、少しでも楽しんでいただければと思います。　もしよろしければこれからも宜しくお願いします。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5950c/

能力<チカラ>×武器<チカラ>

2010年12月18日20時07分発行